

学校支援のための主な事業紹介

★ 電話での申込み、相談等を行っています。 お問い合わせ 03-5800-8008

教職員相談

- ・ 幼児、児童・生徒の理解と対応に関する相談
- ・ 学校教育相談の推進などにかかわる相談

要請訪問（所員の派遣）

- ・ 教育相談に関する研修会への派遣
- ・ 児童・生徒等にかかわる事件・事故による心理的な不安の改善への支援

アドバイザースタッフの派遣

- ・ 学校などへの専門家（臨床心理士等）の派遣
- ・ 学校や家庭への学生の派遣

高校進級・進路・入学相談

- ・ 都立高校の進級、進路、入学、卒業や高等学校卒業程度認定試験などに関する相談や情報提供

青少年リスタートプレイス（高校中途退学者）

- ・ 中途退学後の進路についての相談や情報提供、都立高校への就学、就労に向けた支援

当センターの具体的な支援内容を紹介します

～不登校への支援例～

電話相談

教育相談の専門の相談員が対応します。（匿名での相談も可）

要請訪問

不登校児童・生徒の理解と対応など研修会の講師として所員を派遣します。

来所相談

当センター（水道橋）又は、立川出張所にて子供本人、保護者、教員等からの相談を行います。（事前予約制）

進路相談会

都立高校等の情報提供や今後の進路についての個別相談を行います。

アドバイザースタッフ（学生）

保健室等に登校している子供の学校や、学校に登校できない子供の家庭に訪問し、話し相手や遊び相手をします。

学校教育相談推進校（都立学校）

不登校等の課題解決に取り組む学校に対し、年間を通して教育相談的な視点からの支援を行います。

平成21年度には次のような内容にも取り組みます

- 「学校問題解決サポートセンター」を新設し、一部の保護者による学校への理不尽な要望について、学校・教育委員会等で解決することが困難な案件の解決を公平・中立の立場で支援していきます。
- 通訳が必要な外国人の方への電話・来所による相談を特定の曜日に実施する予定です。（通訳言語：英語、中国語、韓国・朝鮮語）



広報

すこやかさん

第24号



東京都教育相談センター

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-3-3

<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>

TEL 03-5800-8545(代表) FAX 03-5800-8402

平成21年2月発行

一人一人の子供を生かす連携の在り方

東京都教育相談センター統括指導主事 岡部 君夫

子供を取り巻く社会環境が急激に変化していく中、複雑化・多様化する子供の諸問題について、教師の個々の力量だけで対応するには限界があります。校内での連携、家庭との連携、地域・関係機関との連携を適切且つ効果的に実施し、対応していく必要があります。

この3つの連携の中でも、教育相談においては特に校内での連携の充実を重視しています。どの連携も大切ですが、まず校内で連携を図り、子供の行動や背景を的確に把握して適切に対応し、必要に応じて、家庭との連携、地域・関係機関との連携を図ってほしいと考えています。

■教職員間の日常的な情報交換をしましょう

「子供一人一人を生かすための連携」では、担任を中心とした教職員間の円滑な情報交換が大切です。同学年の教員、生活指導主幹（主任）、教育相談担当教員、養護教諭、教科担当の教員、スクールカウンセラーなどと積極的にかわり、子供の情報を収集していきましょう。

情報を収集する過程では子供の良い情報・悪い情報の両方が入ってきますが、子供を様々な角度からとらえた客観的な姿としてとらえましょう。そうした姿勢をもつことにより、担任として気付かなかった子供の正確な情報を得ることになります。その情報を生かして、他の教員と協力しながら対応していきます。ただし、対応の難しい事例は担任だけで抱え込まずに、必ず生活指導主幹（主任）、管理職と相談して組織的な対応につなげていきましょう。

■事例研究など、校内体制の充実を図りましょう

教職員全体の共通理解と共通実践は校内連携の要です。そのためには、子供の理解を深め、指導方針を確立し、教職員相互の共通理解と実践につながる事例研究をしましょう。対応の難しい子供、問題行動を起こしている子供など、担任が取り上げてほしい事例を出して、全体会等で話し合います。

事例研究会では事例提出者は様々な角度から出た意見を謙虚に受け止めます。一方、参加者は「べき論」ではなく、事例提出者にとって役に立つ視点で意見を述べます。時には講師を招いて専門的な見地からの助言を得ることも有効です。

■教育相談に取り組む体制を整備しましょう

組織的な連携の中心は管理職です。教育相談活動の充実のために学校全体の教育相談体制を整えましょう。管理職は組織上に教育相談部や教育相談担当者を位置付け、担当者が活動しやすいようにその職務内容を教職員全員に周知しておくことが重要です。これにより教育相談担当者は組織を活用して定期的な情報交換会や事例研究会等を進めやすくなり、教職員の子供理解や円滑な対応がより一層進みます。また、危機管理の視点からも教育相談体制の構築及び相談活動の充実は未然防止の取組を含めて重要なポイントになります。

今号では「一人一人の子供を生かす連携の在り方」を考えるきっかけになるよう「校内での話し合いを効果的に行う」ための事例を取り上げていきます。

相談のご案内

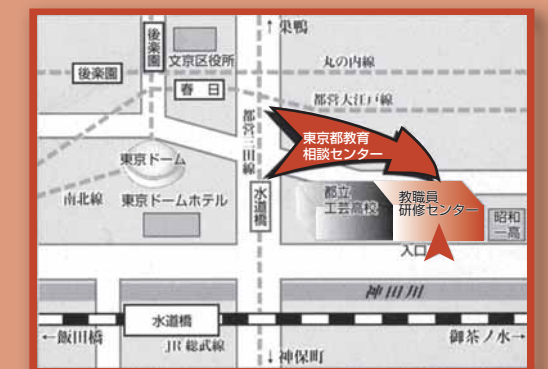
受付電話番号 03-5800-8008

- 電話相談／平日 午前9時から午後9時まで
土・日・祝 午前9時から午後5時まで（年末年始等を除く）
*上記以外及び閉庁日は、留守番電話及び電子メールによる対応をしています。メールは、ホームページから入れます。
<ホームページ> <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>

- いじめ相談ホットライン／24時間対応 03(5800)8288

- 来所相談／平日 午前9時から午後5時まで
*電話でお申し込みください。
*立川出張相談室（立川市錦町6-3-1）においても応じています。

- 所在地／〒113-0033 東京都文京区本郷 1-3-3



JR 総武線・都営地下鉄三田線水道橋駅下車 徒歩2分
東京都教職員研修センター内

校内での話し合いを効果的に行うために ~子供の「よいところ」に注目して~

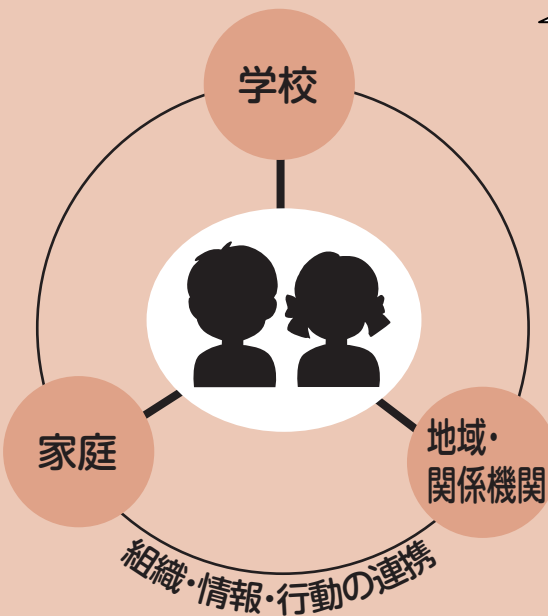
東京都教育相談センターでは、教職員からの相談を受け付けています。

電話相談受付
03-5800-8008

特定の子供へのかかわりを話し合う際、問題点ばかり出てくることはありませんか。そのような話し合いでは、日ごろの苦勞や思いを共有する場にはなっても、今後の対応のヒントがなかなか得られずに終わってしまうこともあります。今回は、子供の行動の改善を図るために「よいところ」に注目するという、視点を変えた話し合いを紹介します。

子供の行動

子供へのかかわり



子供の行動の改善

注目こそ力である

子供は注目されたいがために行動を起こします。そして行動は良きにつけ悪きにつけ、注目されることによって増大します。そのため、増やしたい行動に肯定的な注目（ほめる・認めるなど）を意識的に与え続けることが大切です。

子供をどう見るか(かかわりのための一事例)



今までの目標設定は、「～しないようにする」ためのものが多くありませんでしたか。

「できないこと」など否定的な問題点に注目しがちではありませんか。



教育相談的な話し合いの視点

肯定的な視点で目標設定

肯定的な子供像

その子供がどう変容してほしいのか、教師が目標と考える姿を常に想像しましょう。

肯定的な視点で注目

気付く・探す

子供をよく観察し、よいところ、伸ばしたいところを探すようにしましょう。

伸ばす・増やす

よいところを見つけたら注目し、声をかけましょう。

教育相談的な話し合いの具体例

「できるようになること」を目標にしませんか

例 教諭A「授業中、発言できるようになるといいですね。」
教諭B「授業開始時に席についていられるようになるといい。」
教諭A「行事などで役割をきちんとできるようにになるといいですね。」

指導もその目標に合ったものになります。

明確な子供像をもつことが大切です。

「どうなったらもう大丈夫」と思えますか

例 教諭A「元気な声で挨拶ができるようになったら大丈夫だと思えるね。」
教諭B「学校生活が楽しめるようになると安心できると思います。」

「できていること」は何ですか

例 教諭A「授業開始から10分位なら静かに聞いています。」
教諭B「好きな教科なら時々発言します。」

できていることを一つでも多く増やします。

「得意なこと」は何ですか

例 教諭A「走るのが速いよ。」
教諭B「パソコン操作が上手ですよ。」

得意なことをほめて伸ばします。

「たまたまできたこと」はありませんか

例 教諭A「いつも遅れるのに、この前はすいぶん早く来ていたね。」
教諭B「この前、口げんかした際、めずらしく手を出さなかったですね。」

偶然できたことに注目し、声をかけます。

「好きなこと」は何ですか

例 教諭A「音楽やアニメが好きですよ。」
教諭B「ファッション関係に興味があるようです。」

子供の興味・関心を大切に、その意欲を励まします。

教育相談的な話し合いのチェックリスト

- 子供の理想的な姿を想像できますか。
- こうあってほしいと思う子供の姿を常に想像していますか。
- 今、子供ができていることは何ですか。
- 前学期よりできるようになったことはありますか。
- 昨日よりできるようになったことはありますか。
- 最近たまたまできたことはありますか。
- たまたまであってもそれを評価していますか。
- 子供のよいところを探すアンテナをはっていますか。
- 子供のよいところを挙げられますか。
- よいところをほめ、認める声かけをしていますか。
- 子供の得意なことや好きなことを把握していますか。
- 子供の好きなことや得意なことに興味を寄せ、たまには一緒に楽しんでいますか。